

フットパスとは

フットパス（footpath）とは、もともとイギリスで農村部を中心に発達した「歩くことを楽しむための道」のことで、英国では、国有地・私有地を問わず、公衆が通行する権利を認められている通路のことを指します。

自然と親しみながら楽しんで歩ける「小径」として、川沿いや山林、野原や農場内、農作業道など、北海道でも、自治体だけでなく民間団体や個人によりフットパスを手作りで整備して利用する動きが活発化しています。

例えば、ニセコ町の牧場で誰でも散策できる道が開放されていたり、黒松内町、白老町（ウヨロ川周辺）、日高町（猿留山道）や根室の酪農家によるフットパスなどの取り組みが行われていたりしています。



（牧柵の扉を開けて入る）



根室（厚床）のフットパス



英国のフットパス



根室の牧野のフットパス



黒松内町の川沿いのフットパス



白老町の牧柵沿いのフットパス